

大 学 生 活 紹 介

素晴らしい個性や世界観を持っている人たちばかりです。

岡本 晏奈さん

愛知県立芸術大学 油画専攻2年
2017年度 油絵専科 / 2018年度 油絵本科
向陽高校出身



地下鉄とリニモを乗り継いで大学に通っています。窓から見える街並みが緑色へ変化していく様を眺めながら毎日大学へ通うのは、普段生活している場から制作をする場へ向かう心の切り替えのルーティンになっています。

この大学に入ってよかったと最も強く思う点は、素晴らしい同級生たちに恵まれたことです。学友は皆、素晴らしい個性や世界観を持っている人たちばかりです。アトリエにはさまざまな才能やセンスに溢れ

た作品があって、覗くだけでたくさんの学びを得ることができます。

コロナ禍の最中ですが、愛知県立芸術大学は少人数クラスでの対面授業を重視しているため、いち早く対面授業を開始しました。一部の基礎教養科目ははまだオンライン授業ですが、油画の美技の授業はすべて対面で行われています。課題ごとに担当の先生と1対1での面談があり、課題や自分についての理解を深めて制作することができます。



1



2



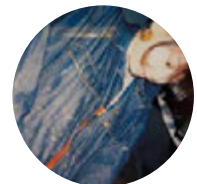
3

1. 作品写真
2. 制作の様子
3. 校内風景

一番大切なのは自分が何をするかです。

上原 咲歩さん

多摩美術大学 油画専攻2年
2017年度 油絵日曜専科 / 2018年度 油絵本科
旭丘高校出身



多摩美術大学では、絵画科油画専攻といっても絵画での表現だけでなく、さまざまな方向性での表現の模索ができるような、図書館や大型工作施設、撮影スタジオや撮影機材、3Dプリンターの貸し出しなど多くの設備がそろっています。課題も基礎課題が終わればほとんど表現方法に決まりはないので、自分の興味があるものをとことん突き詰めることができます。また、たくさんある他学科の教授や特別講師による講義も選択することができるので、日々自分の知らない世界を体験することができ、とても充実した学校生活になると思います。もち

ろん絵画制作を頑張りたい人にとっても、現在作家として活躍するたくさんの教授方とじっくりと話し合う時間は、きっと助けになると思います。

たくさん選択肢のある大学ですが、どこにいても一番大切なのは自分が何をするかだということに変わりありません。とっても楽しいですが、あっという間に過ぎてしまう大学生活で、たくさんの経験の中から何か自分にとって特別なものを探してみてください。



1



2



3



4

1. 《暗闇に目が慣れる前に》
2. 《留められる形》
3. 制作風景
4. 芸祭風景

OB・OGからのメッセージ

学ぶことは美術で生きていくための糧となります。

平井 晴香さん
画家

東京芸術大学 大学院美術研究科絵画専攻油画修了
愛知県立芸術大学 油画専攻卒業
1999-2000年度 基礎中学専科/2001-2002年度 基礎高1・2年専科/2003年度 油絵専科
名古屋大学教育学部附属高校出身



私はドイツのベルリンでフリーランサーとしてアーティスト活動をしています。自身の表現を求めて、愛知から東京、さらにはドイツと活動の場を変えてきました。絵を描き続けることだけを考えて、気づいたら海外にいるという感じですが、ここに来るまでには、本当にたくさんの方々にアドバイスや応援をいただき、お世話になりました。

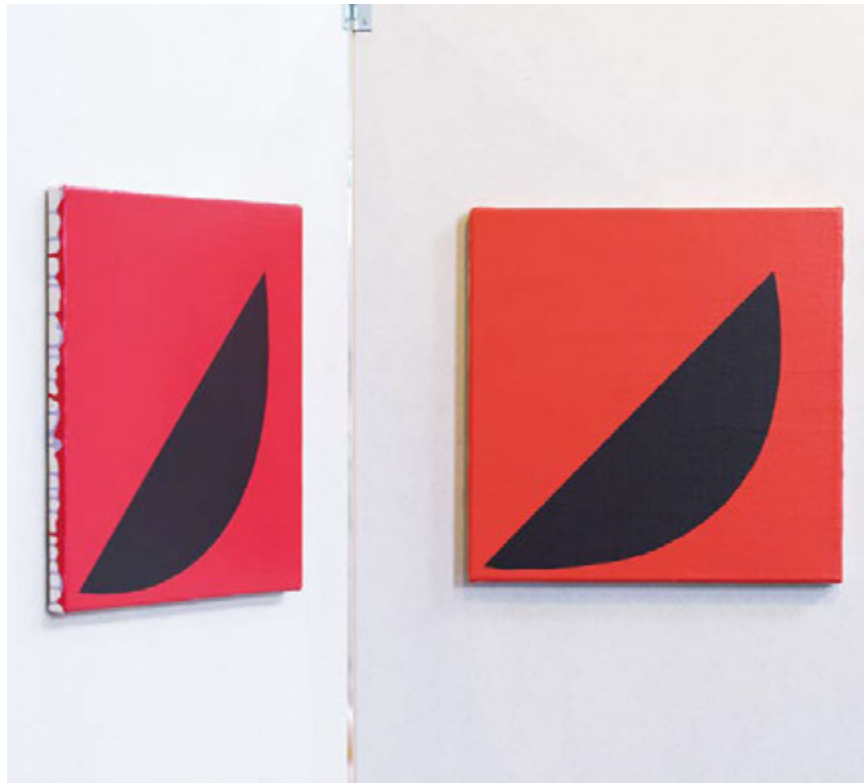
20年近く前になりますが、河合塾には中学生の頃から通っていて、多くの時間を過ごしています。今でもコンタクトを取らせていただいている先生がいらっしゃいますが、当時の先生の言葉は時に難解で、高

校生の私には読み解けないこともありました。先生方はアーティストとしての先輩でもあります。アーティストとして制作をするようになって、あの時の先生の言葉がようやく理解できた気がします。

河合塾で学ぶことも、大学で学ぶことも、それぞれに美術で生きていくための糧となります。つくり続けることで、出会ったり、解るといことが、この世界にいる喜びかもしれません。つくり続けることは簡単ではないですが、焦らずたくさんのごことを吸収し続けてください。



1



2

1. bookmark, 2019 (100×100cm)
2. bookmark, 2019 (各37×37cm)